

サレジオ同窓会日本連合 2016年度役員会 議事録(案)

日時： 2016年10月15日(土) 15:00~17:30

場所： サレジオ小学校・中学校 中学校舎2階教室

出席者：(役員) 吉田会長、林副会長、野崎副会長、小太刀副会長、近松理事、
由良理事、河村理事、長岡理事、横山理事、仁賀理事、井上理事、
酒井理事、篠原理事、富岡理事、奥山監事

(顧問) 山野内管区長、小島神父、北川神父、鈴木(正)神父

(事務局) 立石事務局長、大川(書記) (21名)

委任状提出者： 谷口理事、又江原理事、北村監事、鈴木(英)神父 (4名)

欠席者： 倉知副会長、森理事、矢本理事、塚田理事、黒岩理事、
鳥越神父、濱崎神父 (7名)

オブザーバー(サレジオ会)：クレメンテ神父、三島神父

(ウニオーネ)：伊佐氏 (育英学院)：西野氏、鈴木氏

(サレジオ学院)：武井氏 (大阪星光学院)：飯田氏

(サレジオ小中)：山崎氏 (通訳)：佐倉氏 (9名)

1. 開会の言葉(小太刀副会長)

司会進行役の小太刀副会長(開催校・サレジオ小学校中学校同窓会長)より、開会の宣言があった。

2. 歓迎の挨拶(北川神父)

会議前の校内見学を通じて、学校の雰囲気を味わっていただけたと思う。小学校・中学校という形で同窓会があるのは珍しい形だろう。サレジオ小学校中学校同窓会は発足1年2か月とまだ若い、小規模校の特性を活かし、連合・各同窓会の助けをいただきながら、前進していきたいと考えている。

3. 管区長の挨拶(山野内管区長)

チャーベス前総長来日時の10数年前の会合から始まり、今日に至る連合の歩みは奇跡であろう。ここ小平での会合で開催校を一巡することになる。このたび、世界連合で「祈りと約束」が作られたが、「サレジオ同窓生の約束と祈り」という形で日本版(試案)を作成した。今後、各同窓会の会合の際に唱えて修正を加えていければと思う。この「約束と祈り」が、サレジオ同窓生としてより心一つにする助けとなるよう願っている。

- ・ 「サレジオ同窓生の約束と祈り」を参加者で唱和した。

4. 東アジア・オセアニア地域顧問 クレメンテ神父の挨拶

今日、同窓会日本連合の皆さんとお会いできてうれしく思う。2か月にわたる日本管区の公式訪問を通じて感じていることを分かち合いたい。

日本管区のサレジオ会員は現在 96 人と減少傾向にあり、今後は学校の校長に会員でない者が就くことが考えられ、学校の運営上、同窓生の力がますます必要になるだろう。

そうした中で各校がサレジオ会・カトリックの学校としての特徴を出していくためには、ボランティア活動を重視していくことが大切である。各校のボランティア活動と、青年向けのグループとして存在する DBVG（ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ）とのリンクをつくることも考えられるだろう。

フェルナンデス総長からの同窓会連合への願いとして、①教会の社会教説に則って「よき社会人」として同窓生に社会で貢献してほしいということ、②サレジオ家族のメンバーとして、その発展に力を貸してほしいということがあるので、ぜひ意識してほしい。

日本管区は、6か年計画を立て「より貧しい青少年のための管区となる」という野心的な方向性を打ち出した。挑戦していくにあたって皆さんのお力添えをお願いしたい。

5. 会長の挨拶、議長および書記の選出（吉田会長）

・本役員会の議長として吉田会長を、書記として大川事務局員を全会一致で選出した。

<吉田会長の挨拶>

素晴らしい環境にあるサレジオ小学校・中学校での今回の会合で、加盟校を一巡することとなった。徐々に緊張から交わりへと連合の雰囲気も変わってきたが、具体的に何をしていくかが問われており、いよいよ方向性を定めていく時期が来たように思われる。役員皆さんのご協力をお願いしたい。

6. 参加者紹介および近況報告

小太刀副会長（サレジオ小中）、林副会長（育英学院）、井上理事（大阪星光学院）、長岡理事（サレジオ学院）、野崎副会長（日向学院）より各同窓会の参加者（役員・オブザーバー）の紹介と近況報告がなされた。

また、立石事務局長より、オブザーバーのうち三島神父（サレジオ会青少年司牧委員長）、伊佐氏（ユニオーネ本部評議員）、佐倉氏（サレジオ会福音宣教委員会スタッフ：クレメンテ師通訳）の紹介がなされた。

7. 議案

（1）前回議事録の承認

資料2により、前回2015年度第2回会合の議事録を確認し、全会一致で承認した。

（2）報告事項：2016年度事業の進捗報告

① 2016年5月 会長・副会長レベル会合議事録の確認

立石事務局長より、資料3により、2016年5月に開催された会長・副会長レベル会合の議事録について報告がなされた。

② 2015年度収支決算書、2016年度予算案の確認

横山理事より、資料4により、2015年度の収支決算書について説明がなされ、奥山監事より同決算書が適正に処理されている旨、監査報告がなされた。また、横山理事より、資料4により、2016年度の収支予算書（案）について説明がなされ、適正な予算執行に努めることが確認された。

③ 第11回サレジオ同窓会連合アジア・オセアニア地域大会報告

立石事務局長より、資料5により、第11回サレジオ同窓会連合アジア・オセアニア地域大会（東ティモール・ディリ、2016年10月4日～8日）について報告がなされた。主な内容は以下の通りである。

- ・ 会議のテーマが「よい教育・経済的連帯・社会正義の促進により仲間と共に神に仕える」であったこと。
- ・ 1日目の歓迎夕食会で日本のために「スキヤキソング（上を向いて歩こう）」が演奏され、日本連合メンバーは歌を披露したこと。また、揃いのドン・ボスコ・ジャパンTシャツを着用し、主な参加者にプレゼントしたこと。
- ・ 「世界連合6か年戦略計画2016-2021」が紹介され、①持続可能な組織への成長、②養成と教育、③GEX同窓会青年部の活性化、④財政強化とファンドレイジング、⑤家庭支援、⑥サレジオ家族との連携、⑦コミュニケーションと発信、の「7つの優先課題」が策定された旨報告を受けたこと。
- ・ 日本連合について立石事務局長より活動報告を行ったこと。
- ・ 閉会ミサでダ・シルバ司教より日本連合メンバーの愛の姿勢に言及があったこと。
- ・ 3日目の夕食会で日本酒をふるまい大いに喜ばれたこと。
- ・ 今大会の決議内容について。

そして、第11回大会決議、大会にあたって吉田会長より送られた挨拶文（和文・英文）を確認した後、大会に参加した鈴木（正）神父、林副会長より感想が述べられた。

- ・ （鈴木（正）神父）：今回参加して、世界との連携を今後図るためにも、世界連合やアジア連合のことについてもっと勉強すべきだと痛感した。会議全体を通して、啓蒙される部分が大きかった。
- ・ （林副会長）：世界の同窓会連合の状況に触れることができた。西野氏、鈴木氏など東ティモール経験のあるメンバーの存在が大きかったし、東ティモールの人のあたたかさ、現地でのサレジオ会の存在の大きさを実感した。今後の世界での活動を考えると語学力が大切であろう。

④ 第12回サレジオ同窓会連合アジア・オセアニア地域大会（2020年）の日本開催についての検討

次回2020年のアジア・オセアニア地域大会について、先般の東ティモール大会において、日本が開催地候補に挙げたことを受け議論がなされた。大要、以下の通り意見が出された。

- ・ 東ティモールで各国同窓生が、ぜひ日本でと熱く歓迎していた。その声を無視することはできない。
- ・ 日本開催となれば、発足間もない日本連合にとって記念となり、結束を固める格好の

機会となると思う。

- ・ 大会準備は大変で、乗り越えなければならない課題も多いと思われるが、日本連合をより強くするプロセスとなり、チャンスであるとも思う。
- ・ アジアの中での日本連合のプレゼンスが高まり、アジアの代表メンバーにも選ばれるようになるだろう。
- ・ 開催するとして、時期・人数・費用などきちんとした検討を行い、条件を日本連合として提示して、無理のない範囲で受け入れることが大切。
- ・ オリンピックの年と重なり、宿泊施設・会議場の確保、またその費用などハード面での困難が予想される。
- ・ 開催を受け入れるかについて議論する前に、東ティモール大会の決議について日本連合として何ができるかを検討することが先ではないか。
- ・ 日本での開催が経済的に高くつくということは、他国連合メンバーも理解していることと思う。世界連合アジア地域担当グプタ副会長からは、会議日程をコンパクトにし、希望者のみが見学・観光を行うという案も示されている。
- ・ アジア各国の文化の多様性を踏まえながら、日本らしさを出していくことが必要。

山野内管区長からは「開催に向けて大会組織委員会を設置し、たたき台を作って役員レベルに提示していくことがよいのでは」との提案があった。

以上を踏まえ、議長より 2020 年アジア大会の日本開催を受諾し、開催に向けた検討・準備を進めること、準備は各同窓会の若手（同窓会青年部）メンバーを中心に大会組織委員会を設けて進めることが提案され、全会一致で承認された。

（３）議案 今後の展望・目的の共有

議長より資料 3 の「3. 今後の展望・目的の共有」、また資料 5（第 11 回アジア大会決議書添付資料「7 つの優先課題」グループ討議の内容）を受けて以下の通り提案がなされ、全会一致で承認された。

- ① 日本連合の団体としての性格を明確にし、持続可能な組織へと成長を遂げるため、近い将来、（一般）社団法人化することを目標とすること。
- ② 日本連合としての財政基盤を強化し、より具体的な活動を推進するために、各同窓会が連合のための会費を集めること。
年間 3,000 円を目安に設定し、できるだけ多くの同窓生が協力してくれるよう、各同窓会でアナウンスに努めていく。会費徴収を通じて、在校生や若い同窓生の支援、DBK（ドン・ボスコ基金）への寄付や災害・貧困などの課題への援助など、サレジオ会と協力しつつ、「世の光」としての活動を充実させていきたい。
- ③ 日本連合共通のピンバッジを製作すること。
すでにバッジを製作している大阪星光学院・サレジオ学院同窓会のデザイン（ドン・ボスコの顔＋「Salesian」「Salesian Alumni」などの文字を入れたもの）を基本とし、各同窓会で必要な準備を行ったうえで、順次導入していくこととする。
- ④ 今後の各作業の円滑な進行を目的とし、各同窓会より 1 名以上の若手理事を早々（2016 年 10 月中）に推薦していただき、2020 年日本で開催するアジア大会の準備他、

今後、連合のワーキングチームとして担当していただくこととする。

なお、2020年アジア大会に関しては、本日オブザーバーとして参加している若手（西野、鈴木、武井、飯田）各位には大会組織委員会ワーキングチームとして、鈴木（正）神父には引き続き顧問として参加していただくこととした。

このほか、今後の展望に関して、「年齢別・地域別などの小さな部会・共同体を作り活性化させる」「同窓会を定着させるためのイベントを積極的に開催する」といった意見が挙げられた。

また、山野内管区長より、仁賀理事のDBK監事就任について報告があり、同窓生の専門性を活かしながら、今後もサレジオ家族の様々な活動に協力してほしい旨発言があった。

8. 会長の挨拶（吉田会長）

今日の長時間の会議を経て、自分の中に温かいものがこみ上げてきている。「世の光であれ」というドン・ボスコの教えを受け継いできた我々は、次の世代に引き継いでいく責任を担っている。ここにいるメンバーであれば、それを実現できると信じている。小さな光を足しながら大きな灯りとなって、様々な課題を解決できるまとまりとなっていきたい。

9. クレメンテ神父の挨拶

今日の話し合いはとてもエキサイティングだった。2020年アジア大会というチャレンジを引き受けることによる実りに期待したい。

日本開催の難しさは理解している。来年サレジアニ・コオペラトリー（SC）の東アジア・オセアニア大会が東京で開催される。より若いメンバーの参加を目指しており、会議とともに青年の集会も開かれるので、その経験からも学ぶことができるだろう。また2018年10月にはフェルナンデス・サレジオ会総長の来日も予定されているので、計画的に準備するうえで助けになるだろう。

同窓会連合の大会は、サレジオ家族全体の同窓生が集まるもので、主催がサレジオ同窓会連合であるという点に留意してほしい。今後、ウニオーネとの交流がますます重要になる。世界のサレジオ家族とつながるきっかけとなるように願っている。

世界連合の「7つの優先事項」について、日本連合として検討のうえ適応し、各同窓会のレベルにも浸透させてほしい。大阪星光学院同窓会のように、事務局において多くの人を巻き込んでいくことが大切だろう。また、ウェブサイトやSNSを通じた情報発信に力を入れてほしい。

フェルナンデス総長の名において、2020年大会に向けて皆さんと共に歩んでいきたい。

10. 閉会の言葉（小太刀副会長）

・小太刀副会長より、閉会の宣言があった。